

梅
prunus
mume



吉野梅郷(青梅市)

園芸豆図鑑Vol.13

梅

- 参考文献
- 「ウメ」 NHK趣味の園芸 作業12か月 11 大坪孝之 NHK出版
 - 「日本の梅・世界の梅」 堀内昭作編集 養賢堂
 - 「梅と櫻」社団法人 日本公園緑地協会
 - 「園芸植物大事典」 小学館
 - 「日本古典文学大系」 岩波書店
 - 「斎藤茂吉全集」 岩波書店

監修
大坪孝之(東京農業大学農学部助教授)

協力
須崎輝男(東京都立農林高等学校)
青梅市にある90年の伝統をもつ農林高等学校の果樹園には330種以上の梅があります。青梅市の吉野梅郷は関東随一の梅の里です。東西4kmにわたって25,000本の紅白梅が咲きます。表紙は吉野梅郷で撮影しました。

写真協力
世界の梅公園 兵庫県揖保郡御津町綾部山 07932-2-1001
ウメを町の花にしている御津町は、日本、中国、台湾、朝鮮など世界のウメ350種2,000本を植栽しています。



案内
相模原市立相模原北公園
相模原市下九沢2 368-1
042-779-5885
10.5haの広い公園の一角にある小さな梅園ですが、以前神奈川県園芸試験場相模原分場に植えられていたウメが100種類各1本ずつ植えてあります。枝が低く花がよく見えますので、12月冬至から4月まで、白、淡紅、紅、色とりどりの品種を見比べて楽しめます。

発行
財団法人 相模原市みどりの協会
〒228-0828 神奈川県相模原市麻溝台2317-1 TEL042-777-2860

清楚な香りとともに春を告げて咲く“梅”

冬の厳しい寒さのなか、少しずつ固い花芽をふくらませ、ひたすら春を待つ梅。季節がふいに気を緩めると、暖かい風に誘われるように、ほのかな香りを漂わせながら花開いてゆきます。

梅は清楚な香りとともに、春を告げる花として昔から愛されています。花は、冬から春への一日一日の温度の積み重ねによって咲きはじめ、白、淡紅、濃紅、一重、八重と多彩に楽しませてくれます。木の寿命も長く、古木になるほど味わいがあり、また、果実はわたしたちの生活に欠くことのできないものです。さまざまにわたしたちを楽しませてくれる梅を紹介いたします。



ウメ

学名 *Prunus mume*
 英名 Japanese apricot (日本のアンズ)
 中国名 梅(メイ)
 バラ科サクラ属の落葉高木
 樹高 10m
 樹皮はかたく、多数の枝を出す、葉は互生、葉に先立って開花。白、淡紅、紅色、一重咲き、八重咲きなど園芸品種は300種以上。一重咲きのはがく片、花弁ともに5枚、めしべ1本、おしべ多数。

ウメは日本に自生していたという説と中国からの渡來說があります。中国のウメの自生地は湖北省や四川省といわれ、殷(紀元前14～12世紀)の遺跡からウメの核が発掘されています。核というのは梅干を食べたときのカチンと歯ごたえのある堅い部分で、この堅い部分は種子(仁)を包んでいる果実の一番内側の皮にあたる場所です。この核が青銅製の容器に入っていました。日本では弥生時代から古墳時代にかけての遺跡から出土しています。ただ縄文時代の遺跡からは出ていないので、渡來說が有力です。

ウメの語源は3説

1. 「ウ」は熟(う)む、「メ」は実でウムミ(熟実)からウメ
2. 中国読みメイに接頭語がついてウメ
3. 烏梅(ウメイ)というウメの実の燻製が薬用として中国から先に渡来していたが、あとから苗木が渡来し烏梅の木と呼ばれウメ

日本の文献にウメがあらわれたのは、「懐風藻」(751年)「万葉集」(759年)からで、遣唐使が唐文化の象徴のひとつとして持ち帰ったようです。

奈良時代の上流貴族はウメをたいへん好みました。「万葉集」の約4500首の歌の中で、ウメは118首詠まれ、登場する約160種の花の中で、ハギに次いで2番目に多く、サクラよりも多く詠まれています。歌に詠まれたウメは雪のような白梅で、眺めるだけでなく、盃に浮かべたり、頭にかざしたり、袖に入れたりして楽しんでいます。平安時代は花の主役をサクラにゆずりましたが、香りのよさや紅梅の華やかさが好まれ、清少納言の「枕草子」では「木の花は濃きも薄きも紅梅」と語られています。



「白紬地梅樹下草模様描絵小袖」酒井抱一画 国立歴史民俗博物館蔵

鎌倉時代には実梅も栽培されて「尺素往来」(1487年)に菓子の種類として記載されています。禅宗の僧は梅を好み水墨画の題材としました。

江戸時代は品種の改良も進み、専門書「花壇綱目」「梅品」なども発行され、江戸後期になると園芸種も100種近く、日本各地にウメの名花や名木を集めた名所もできました。江戸では亀戸、向島、蒲田の梅屋敷が人気でした。実の生産量も多くなり、薬用、染色に使われ、梅干も普及し、ウメは庶民の生活の中に欠かせないものとなっていきました。また吉祥を意味する「松竹梅」のひとつとして、衣装、陶磁器、小物類にもさまざまな意匠で表現されています。

明治時代には園芸種は300をこえ、名花が作出され、現在にいたります。

園芸上の分類

果実の収穫を目的とする実梅(ミウメ)と、観賞を目的とする花梅(ハナウメ)とに分けられます。さらに古くからの趣味家は花梅を木の性状により下記のような「性」に分けています。なお、この分類も人により異なりますが一例をあげておきます。

- 野梅性 原種に近い、葉が比較的小さく、枝もよく出て、香りがよい、花は中輪で白色が多い
- 紅筆性 つぼみが筆の先のようにとがり、紅色になる
- 難波性 葉が丸く、枝が細かい、香りがよい、花は白色が多いがまれに淡紅色
- 青軸性 つぼみが緑白色で、花は青白色、枝は濃い緑色
- 豊後性 杏(アンズ)との自然雑種、枝が太く、葉は丸く大きい、葉に毛がある、花は大輪で淡紅色
- 杏性 杏(アンズ)との自然雑種、枝は豊後性よりやや細い、葉は大きくなめらか、花は中輪で淡紅色(ウメとアンズは植物分類学上たいへん近い関係です)
- 紅梅性 枝は細く密に出る、枝の断面の中心部(髓)が紅色、花は多くは中輪で紅色

この分類は木の性質をある程度知ることができる点ではよいのですが、たくさんの品種を完全に分類することができません。園芸豆図鑑「梅」では花梅と実梅に大別し、花色で分けて紹介します。しかし、品種説明の中に「性」を入れましたので参考にしてください。また、昔からの花色、花弁の状態の説明にも微妙な美しい表現がありますので重ねて参考にしてください。

開花期 同じ品種でも、場所、その年の天候、栽培方法、樹勢によって異なります。ここでは東京近辺の平均的な開花期を示しました。ウメの開花は、九州では東京より2週間くらい早く、東北では3週間くらい遅れます。



月の桂
ツキノカツラ
一重咲き 中輪
開花期
1月中旬～2月上旬
青軸性
月影よりやや花が大きい、
6弁もある、盆栽によい



茶青花
チャセイカ
一重咲き 大輪
開花期
2月上旬～3月中旬
野梅性
抱え咲きの花、清楚な
純白、花つきよく、樹勢
は強い



白難波
シロナンバ(西)/シロナニワ(東)
八重咲き 中輪
開花期
1月下旬～2月下旬
難波性
さし木でよく発根、台木
に使う



月影
ツキカゲ
一重咲き 中輪
開花期
1月中旬～2月上旬
青軸性
枝もガクも緑色で美し
い、花弁は丸弁で花形
が美しい



八重野梅
ヤエヤバイ
八重咲き 大輪
開花期
2月中旬～3月中旬
野梅性
つぼみはやや紅色、樹
勢は強い



玉牡丹
ギョクボタン/タマボタン
八重咲き 大輪
開花期
2月上旬～3月中旬
野梅性
中側の弁が小さく、平た
くみえる、盆栽によい



新冬至
シントウジ
一重咲き 中輪
開花期
12月中旬～2月上旬
野梅性
冬至の頃咲くのでこの
名がある、枝は細い



虎の尾
トラノオ
八重咲き 大輪
開花期
2月中旬～2月下旬
難波性
抱え咲き、満開になると
花弁が反転する



月宮殿
ゲッキュウデン
八重咲き 大輪
開花期
2月上旬～3月中旬
野梅性
乳白色で抱え咲き、盆
栽にも、庭木にもよい



初雁
ハツカリ
一重咲き 小輪
開花期
12月中旬～1月中旬
野梅性
早咲きで、初雁がくる頃
咲くのでこの名がある



田子の浦
タゴノウラ
一重咲き 中大輪
開花期
2月上旬～3月中旬
野梅性
抱え咲きで、花底は茶
色、ガクは淡い青茶色



宇治の里
ウジノサト
八重咲き 中輪
開花期
2月上旬～3月中旬
野梅性
抱え咲きで、花底は青
黄色、花弁はちぢれて
いる



水心鏡
スイシンキョウ
八重咲き 大輪
開花期
2月上旬～3月中旬
野梅性
開花の始めは黄白色、
のち白色、盆栽にも、庭
木にもよい

Topic

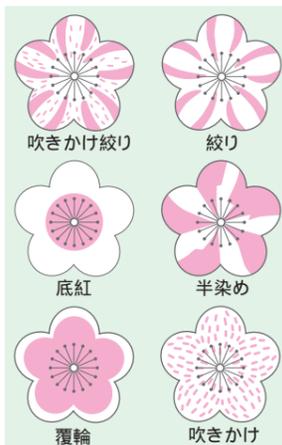
花の大きさや色の区別

栽培法、樹齢、樹勢などによつて異なりますが、便宜上、満開時の花の直径によって次のように分けます。

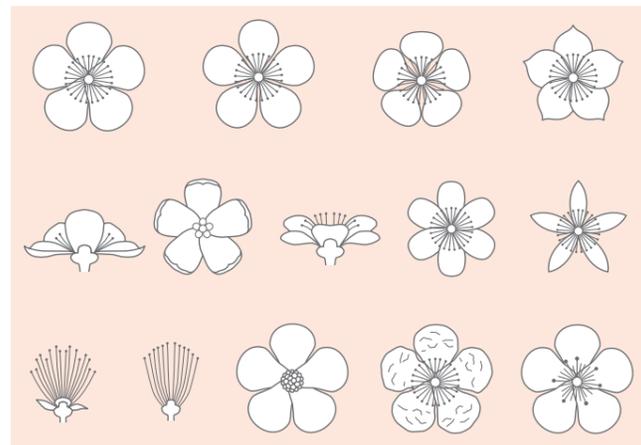
- 極大輪(4cm以上)
- 大輪(3～4cm)
- 中大輪(2.5～3cm)
- 中輪(2～2.5cm)
- 小輪(1.5～2cm)
- 極小輪(1.5cm以下)

花色の区別

黒	紅	黒ずんだ紅色
濃	紅	濃い紅色
紅	紅	紅色
本	紅	つやのある明るい紅色
淡	紅	淡いピンク(淡色)
淡淡紅	淡紅	淡紅よりもさらに淡い色
移り色	蕾	蕾のうちは白色、開花するとピンク
移り色	蕾	蕾のうちはピンクで、咲き初めはうすいピンクが残り、日がたつと白に変わる
移り白	蕾	蕾のうちはピンクで、開花すると白色
白		いろいろあり、「雪白」「青白色」「黄白色」「乳白色」などに分かれている
絞	リ	ふつうの絞りのほかに、半染め、吹きかけ絞り、吹きかけなどがある(右図参照)
口	紅	花弁のまわりが紅、花心部が淡色
裏	紅	花弁の裏が紅で、表が淡色
底	紅	口紅の反対で、まわりが淡色か白、花心が紅(右図参照)
覆	輪	花弁の縁が白で内側が紅色(右図参照)
黄	色	ごく淡い黄



花弁の状態(花形)



ウメの最も普通の咲き方である丸弁。花弁のつけねが丸く、その部分だけがわずかに重なっている。丸弁であるが、弁のつけねが細く、重なりのないもの。同じく丸弁で、前2者よりもつけねが細く、はっきりと離れているもの。丸弁のうちでは最も形がよい。弁の先がとがって、キキョウの花弁のようなもの。スプーンのように中央部がへこんでいる、いわゆる抱え咲きのもの。花弁の先端が外側に反り返っているもの。

花弁が平たいもの。花弁が6枚のもの。花弁が細いもの。花弁が退化して非常に小さくなり、代わりに雄しべと雌しべとが発達して長くなったもの。花弁がなくて雄しべと雌しべだけのもの。雄しべの先が小花弁に変わるもので、ウメの花の中に小菊の花をいれたようにみえるもの。花弁がちぢれてしわのあるもの。花弁ではなく、雌しべが2本以上あるもので、座論梅というもの。



紅冬至
コウトウジ
一重咲き 中輪
開花期
12月中旬～1月上旬
野梅性
開花が冬至頃で花つきがよい、正月の盆栽に使われるが、樹勢が強く庭木によい



東雲
シノノメ
一重咲き 中輪
開花期
1月中旬～2月上旬
紅梅性
花に赤筋が入り、花の中心は紅



無類紋り
ムルイシボリ
八重咲き 大輪
開花期
2月上旬～3月中旬
野梅性
裏紅、吹きかけ紋りで、ガクは茶色、盆栽によい



淡路
アワジ
三重咲き 中輪
開花期
1月中旬～3月上旬
野梅性
ガクは緑色で先は茶赤色、花底は青黄茶色



世界の図
セカイノズ
一重咲き 大輪
開花期
1月下旬～2月中旬
野梅性
抱え咲きで、花形がよく、盆栽によい



武蔵野
ムサシノ
八重咲き 極大輪
開花期
2月上旬～3月中旬
豊後性
ウメの中で最大輪、しべが短く、がくは赤茶色、盆栽にも庭木にもよい



薄色縮緬
ウスイロチリメン
一重咲き 大輪
開花期
2月上旬～3月上旬
豊後性
花弁に小さな波をうつ、満開になると白色、樹勢はよい



蝶の羽重
チョウハガサネ
八重咲き 大輪
開花期
3月中旬～3月下旬
豊後性
花弁が多く、中央部の弁は開かず直立して咲く



見鷲
ケンキョウ
八重咲き 大輪
開花期
2月上旬～3月中旬
野梅性
咲き始めは淡紅で派手な花、樹勢強く、庭木によい



森の関
モリノセキ
一重咲き 中大輪
開花期
2月上旬～3月中旬
紅梅性
底紅で、ガクは紅茶色、盆栽によい



紅筆
ベニフデ
一重咲き 中輪
開花期
2月中旬～3月中旬
紅筆性
つぼみの先がとがって筆先のようななる



八重海堂
ヤエカイドウ
三重咲き 中輪
開花期
2月下旬～3月中旬
紅筆性
花弁が大きく波打つ、花が垂れて咲く



難波紅
ナニワコウ
八重咲き 中輪
開花期
2月上旬～3月中旬
難波性
香りが高いのが特徴、さし木でよく発根

Topic



大伴旅人と観梅の宴

天平2年(730年)太宰府の長官大伴旅人(おとものたびと)は館で観梅の宴を開き、山上憶良などの国司や役人たちと梅の花に酔い、酒に酔い、梅を題材に新春を祝う歌を詠みました。その時の歌が万葉集に32首おさめられています。(巻五・八一五～八四六)万葉集で詠まれているのは白梅です。

白梅は唐文化の象徴であり、貴族たちは競って庭に梅を植えたようです。また別の日、大伴旅人は妻を失った悲しみを詠み、妻と庭作りをしたこと、妻が梅を自分の手で植えたことを偲んでいます。

わが園に梅の花散るひさかたの
天(あめ)より雪の流れくるかも
巻五・八三二 大伴旅人



吾妹子が植ふし梅の樹見ること
こころ咽(む)せつつ涙し流る
四五三

人もなき空しき家は草枕
旅にまさりて苦しかりけり
万葉集 巻三・四五二
妹として二人作りしわが産しまは
木(こ)高く繁くなりけるかも
四五二

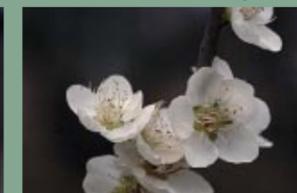
切り口で分かる花色のちがい

花がない時期にウメの系統を知りたい場合、小枝を切って断面を見ます。赤いものは紅梅性、白いものは野梅性・豊後性です。しかし「雪の曙」という品種は、断面が赤くても花は白の一重咲きの小輪が2月上旬から3月上旬に咲きます。

小枝の断面



雪の曙 ユキノアケボノ(紅梅性)





大盃
オオサカズキ
一重咲き 大輪
開花期
1月中旬～2月上旬
紅梅性
花姿が美しい、盆栽や庭木に人気が高い



玉拳
ギョウケン
三重咲き 中輪
開花期
3月上旬～3月中旬
難波性
つぼみから開花まで花色が変わらない、樹勢は強い



唐梅
トウバイ
八重咲き 大輪
開花期
3月中旬～4月上旬
紅梅性
花弁に赤筋が入り、花は下向きに咲く



紅千鳥
ベニチドリ
一重咲き 中輪
開花期
2月上旬～3月中旬
紅梅性
明るい赤、旗弁がでる、丈夫で庭木用



幾夜寢覚
イクヨネザメ
八重咲き 大輪
開花期
2月上旬～3月中旬
紅梅性
花姿は牡丹のように花弁が波打つ、底紅が濃い、江戸時代の記録にもある名花



八重寒紅
ヤエカンコウ
八重咲き 中輪
開花期
12月下旬～1月中旬
野梅性
12月末から花を咲かせる、花弁は波打つ



夏衣
ナツゴロモ
一重咲き 大輪
開花期
2月上旬～3月中旬
紅梅性
おしべもやくも紅色、花弁が6弁のもある、花弁は開かず、抱え咲き



故郷の錦
コキョウノニシキ
三重咲き 中輪
開花期
2月上旬～3月中旬
難波性
抱え咲きで花弁がやや波打つ、盆栽によい



緋の司
ヒノツカサ
八重咲き 中輪
開花期
1月中旬～2月上旬
紅梅性
花弁はへら形、しべはきれいに開く、樹勢は強い



道知辺
ミチシルベ
一重咲き 大輪
開花期
2月上旬～3月中旬
野梅性
おしべの白とやくの黄色が花弁の紅にはえる、盆栽にも庭木にもよい



書屋の蝶
ショウクノチョウ
一重咲き 中輪
開花期
2月中旬～3月中旬
紅梅性
桔梗(ききょう)咲き、つぼみの紅が濃い



江南所無
コウナンショム
八重咲き 大輪
開花期
3月中旬～4月上旬
杏性
中国原産のままのものといわれる、花弁の重ねが厚く、抱え咲き



未開紅
ミカイコウ
八重咲き 中輪
開花期
1月中旬～2月上旬
野梅系豊後性
開花の時、1、2の花弁が咲き遅れる

Topic



菅原道真と飛び梅

平安中期、学者の家に生まれ秀才の誉れ高かった菅原道真は長じて当代一の文化人になり、宇多天皇の信任のもと右大臣まで昇りつめました。しかし次の醍醐天皇が即位すると、左大臣藤原時平のざん言により、延喜元年(901年)太宰府権帥(ごんのそち)として筑紫に左遷されます。いわれない罪、家族を連れていくことも許されない厳しい措置に、痛切な惜別の歌を詠みました。

東風吹かば匂ひおこせよ梅の花
主なしとて春な忘れそ
「捨遺集」

道真の居宅紅梅殿の梅の一枝は、主人を慕って太宰府天満宮まで飛び、そこに根を下ろしたと伝えられています。彼は赴任後2年、59歳で亡くなりましたが、その後都では次々に災難が起こりました。道真を追い落した左大臣藤原時平が39歳で死去、清涼殿が落雷で焼け落ちたのをはじめ各地に落雷、騒乱、伝染病、飢饉が起こり、皇太子の病死も相次ぎました。これはきっと菅原道真の怨霊によるものだと、霊を鎮めるために、北野天満宮が造られ、学問の神様としてまつられるようになりました。日本各地の天満宮には必ず梅の木が植えられています。

梅の字が付きますが、梅ではありません。



黄梅(オウバイ)
モクセイ科 高さ1～2mの落葉小低木 中国原産
開花期2～3月
茎がつる状にのびて垂れ下がり、地についたところから根をだす。早春葉が出る前に、鮮やかな黄色の花をいっぱい咲かせる。花は2～2.5cmの筒状花で、先が深く6裂する。



ロウバイ(ロウバイ)
ロウバイ科 高さ2～4mほどの落葉低木 中国原産 別名カラウメ
開花期1～2月
花径2cmくらいの香りのとともよい黄色の花を、小枝いっぱい咲かせる。名前の由来は、花弁の色が蜜蝋に似るからとも臘月(陰暦12月)に咲くからともいわれる。



黒光
コッコウ
八重咲き 中輪
開花期
2月下旬～3月中旬
紅梅性
しべは赤色で正開



佐橋紅
サバシコウ
一重咲き 中輪
開花期
2月上旬～3月中旬
紅梅性
ガクは焦茶色、盆栽にも庭木にもよい、江戸時代からの品種



小輪緋梅
ショウリンヒバイ
一重咲き 極小輪
開花期
1月中旬～2月上旬
紅梅性
小さくて可憐な花をつける



緋梅
ヒバイ
一重咲き 小輪
開花期
1月中旬～2月上旬
紅梅性
しべは長くて赤い、樹勢やや弱い



玉光
ギョクコウ
一重咲き 小輪
開花期
2月下旬～3月中旬
紅梅性
紅千鳥と似るが旗弁が出ない、樹勢はあまり強くない



鹿児島紅
カゴシマベニ
三重咲き 中輪
開花期
1月中旬～2月上旬
紅梅性
しべは赤色で正開、盆栽、庭木によい

変わり品種
(花・葉・枝)



翁
オキナ
一重咲き 中輪
開花期
2月中旬～3月中旬
野梅性
枝・葉に白斑が入る、盆栽に使われる



麗懸
テッケン/チャセンバイ
●開花期
2月中旬～3月上旬
●野梅性
花弁が退化したおしべ・めしべだけの花、果実が多く結実する



輪ちがい
リンチガイ/悪いのまま
八重咲き 中輪
開花期
2月上旬～3月中旬
野梅性
紅色、白色が入り混じって咲く、樹勢は強い、盆栽によい



香篆
コウテン/ウンリュウバイ
八重咲き 中輪
開花期
1月中旬～2月上旬
野梅性
枝が竜のように曲がりくねる、5、6年の幹にコブができる、盆栽、庭木によい



黄金梅
オウゴンバイ
極小輪
開花期
2月上旬～2月下旬
野梅性
花弁は薄黄色で細い、樹勢は弱く花付きも悪い

梅の木を別名「鉄樹テツジュ」といいます。どっしりとした、存在感のある幹、黒々とした樹皮から呼ばれたものでしょうか。太い幹から「梅一輪」これは「胴吹き」といいます。「胴吹き」とは幹より直接花や芽が出ることを行います。



Topic

昔話のなかの梅
見るな座敷

むかしむかし、若者が怪我をしたうけいすを山でみつめました。手当てをしてやると、うけいすはうれしそうに山の奥に飛んでいきました。それからしばらくして、山に入った若者は、ホ・ホケキョ ホ・ホケキョと鳴くうけいすの声につられて、いつのまにか山深く迷いこんでしまいました。日が暮れてしまい、やれやれと思っていますと、遠くに明かりが見えて、そこにはみたくもない立派な屋敷がありました。戸口には、目が覚めるくらいきれいな娘があらわれました。「お困りでしょう、さあ、どうぞ、おはいりになってください。」若者が夢見るような気持ちになって、座敷にあがりますと、娘はたいそうなご馳走を作って、やさしくもてなしてくれました。やがて一晩が二晩になって、若者は家に帰ることも忘れ、娘と楽しく暮らし続けました。ある日、娘が里まで用足しにでかけることになりました。

「この家には十二の座敷があります。退屈でしたら、あけてみてもいいですが、二番目の座敷だけは決してみないでくださいね。」
「いいと、約束する。」
娘はほっとした顔をして、いそぎ足ででかけていきました。娘がいなくなると、若者はさびしくて、退屈で、つまらなくなって、一番目の座敷をあけました。
一番目は正月。松飾りにおそなえ餅。煮しめにお魚、お酒もありました。
二番目は見てはいけぬ座敷。見るな、見るなど通り過ぎました。
三番目はおひな様。桃の花。ひし餅。ぼんぼりの灯が揺れていました。
四番目は大空に桜、桜。風に花びらが舞いました。
五番目は端午の節句、子どもたちの笑い声。菖蒲の葉のすがすがしい香り。

六番目は波打つ緑の稲。黄色く実った麦。
七番目は七夕。星空中の笹の葉、五色の短冊。
八番目は祭ばやしやが遠くに近くにきこえました。
九番目は十五夜。すすき、おみなえし、ききょう。月に供えた里芋、だんご。
十番目は高い空、木々は燃える紅葉。そしてしまつていく山々。
十一番目は囲炉裏。自在鉤にかかった鍋。味噌の香が暖かく漂っていました。
十二番目は一面の雪景色。白いものがちらちら顔にかかりました。
若者は十二番目の座敷を見てしまうと、残った二番目の座敷が見たくてたまらなくなりました。足がひとりりで動き、気がつくとうとう二番目の座敷をあけていました。座敷はほんのりと明るく、りっぱな梅の木が枝をひろげ、香り高い花を咲かせています。

「梅の木だけか」とたんに、一羽のうけいすが枝から飛び立ちました。その姿を追って、若者がふりかえると、目の前に娘が悲しげな顔で立っていました。「あれほど見て下さると申し上げましたのに。わたしはいつぞや助けられたうけいすです。あなたのよめさまになりたいと願かけをしておりました。もうすこし、あとすこしで、人間になれましたのに」娘は一羽のうけいすになると、はるか遠くにとんでいきました。
気がつくと若者は、何もなしの山の谷間に、ひとり立っていました。

このおはなしは、座敷の数が春夏秋冬の4部屋のものや、題名が「見るな座敷」、「見るな座敷」などいろいろなかたのものがあります。

斎藤茂吉とくれなゐの梅

歌人斎藤茂吉がこのせつせつとした歌を詠んだのは50代半ばを過ぎた頃です。ひそかな恋でした。



くれなゐにほへる梅がひもすがら
我が傍にあり楽しくもあるか
梅が香のただよふ闇にひとりのみ
吾来たれりや独りにやあらぬ
恋ひおもふをとめのごとくふふめりし
くれなゐの梅をいかにかもせむ
まをとめにちかづくことくれなゐの
梅におも寄せ見らくしよしも
「寒雲」 斎藤茂吉

枝垂れ

新梢の枝先が自然と垂れたもの。
枝垂れ型も優しいものと、粗いものがある。



埤出の鷹枝垂れ
トヤデノタカシダレ
一重咲き 淡紅 大輪
開花期
1月下旬～2月中旬
野梅性
開花の後色が濃くなる



白滝枝垂れ
シラタキシダレ
八重咲き 白 中輪
開花期
2月上旬～3月中旬
野梅性
花弁が流れ落ちる滝のように見える



満月枝垂れ
マンゲツシダレ
一重咲き 白 中輪
開花期
2月中旬～3月上旬
野梅性
枝垂れ方は粗いので剪定に注意

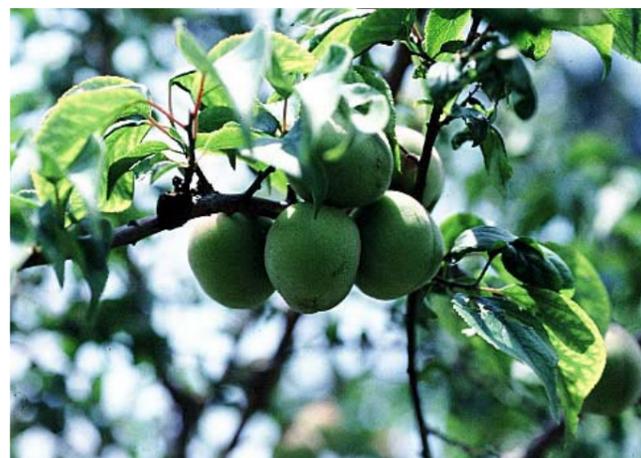


藤牡丹枝垂れ
フジボタンシダレ
八重咲き 淡紅 大輪
開花期
2月上旬～3月中旬
豊後性
つぼみは紫だが、満開になると淡紅色になる



千鳥枝垂れ
チドリシダレ
一重咲き 紅 中輪
開花期
2月上旬～3月上旬
紅梅性
丸弁で花形がよい。葉芽が小さく枝の発生が少ないので剪定に注意。

実梅



食品としての梅



梅干し、梅酒についてはよく知られていますが、ほかにこんなものがあります。

梅肉エキス
未熟な果実をすりおろし、ガ-ゼでこした果汁を、土鍋かホ-ロ-引きの鍋に入れ、とろ火で煮詰めてあめ状にしたもの。

烏梅(ウバイ)
淡緑色の実の皮を向き、金網や竹籠に入れて、煙でいぶしくん製にして乾燥させたもの。漢方の専門家の処方で使用

新潟県京が瀬村梅護寺の「八房の梅」由緒話
親鸞聖人が信者からもらった梅干しの種を庭に植え、浄土往生を唱えたら、翌年芽が出て薄紅の八重の花が咲き、実を八つずつつけたと伝えられています。(八つの実の一つの花の中に雌しべが8本以上あって結実したと考えられる)



豊後フンゴ
一重咲き(八重もある)
淡紅 大輪
開花期
3月中旬～3月下旬
花粉多い、樹勢は強、やや自家不結実性(同一品種では受精しない)、果実特大、品質中



白加賀シロカガ
一重咲き 白
開花期
3月上旬～3月下旬
花粉少ない、自家不結実性、果実大、品質上、樹勢強、関東地方に広く栽培されている



月世界ゲツセカイ
一重咲き 比較的濃い淡紅 大輪
開花期
2月中旬～3月上旬
花粉多い、樹勢は中、やや自家不結実性、果実中、品質上



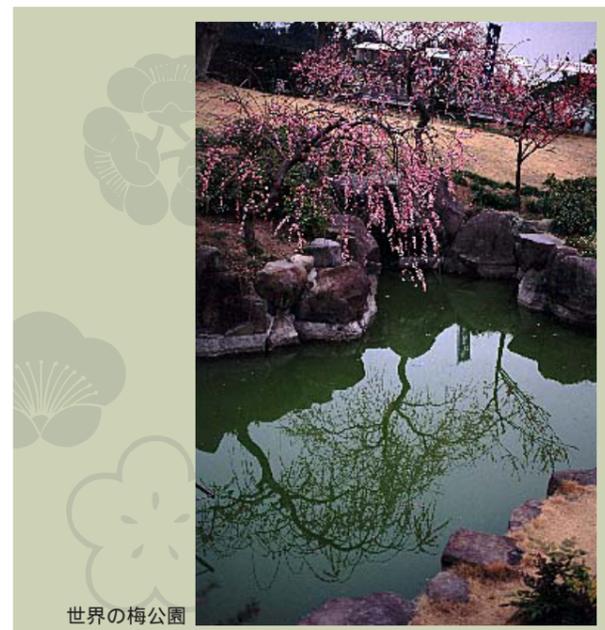
南高ナンコウ
一重咲き 白 大輪
開花期
2月下旬～3月中旬
花粉多い、樹勢は強、自家不結実性、果実大、品質上



甲州最小コウシュウサイショウ
一重咲き 白 小輪
開花期
2月中旬～3月中旬
花粉多い、樹勢は中、やや自家不結実性、陽光にあたる面が赤くなる、果実小、品質上



梅郷バイゴウ
一重咲き 白 大輪
開花期
2月下旬～3月中旬
花粉多い、樹勢は強、果実大、品質上





苗木の購入

品種選びにあたっては、花の観賞が主で1本だけなら、花ウメの中から早咲きの品種を選ぶのが良いでしょう。

実が主であれば、ウメは一般に自家不結実性(異品種を混植しないと結実しにくい)のため、開花時期がほぼ同じで、花粉の多い2品種を混植するか、1本の木につぎ木をする必要があります。現在、白加賀など花粉のない品種を植えている場合は、先の条件の2品種をつぎ木すれば、いずれの品種もよく結実するようになります。

1品種だけで結実するものには、豊後、甲州最小などがありますが、豊後は花が遅いし、甲州最小は花が小さいので観賞上はもう一步というところ です。そこで、花も実もということであれば、淡紅花で美しい「月世界ゲッセカイ」と、白花で果実の品質の良い「南高ナンコウ」の組合せがよいでしょう。苗木は園芸店、植木市、種苗会社の通信販売、苗木生産業者などで、11月から3月にかけて売られています。信用のあるところで、品種名をはっきり確認して求めることが大切です。ウメは冬の間にも根が伸長しますので、早めに購入しすぐ植えつけます。

庭植えの場合

植えつけ

場所は日あたりが良いのに越したことはありませんが、半日くらいしか日があたらないところでも可能です。

真っすぐ1本に伸びた1年苗の場合は、地上部60～70cmのしっかりした葉芽の上で切ります。

その他の場合は、長い枝がのびていれば、いくらか切り詰めます。植え穴は大きな穴を掘る必要はありませんが、根をひろげて植えられる大きさは必要です。鉢植えや根巻き苗はそのまま植えてもかまいませんが、鉢の中に根が巻いている場合は、巻いた根をほどいて各方向にひろげて植えると、あとの生長がよいです。化成肥料一握りと完熟の腐葉土や堆肥を元肥えとして、庭土と混ぜて穴底にいれます。庭土を少し戻し入れて苗を植えます。支柱を立て、つぎ木した部分が地面より少し上にくるように、苗を固定させ、根元に土をたっぷり盛り、充分水やりをします。

水やり

植えつけた年の夏過ぎまでは乾くようなら必要ですが、それ以外はよほど乾きやすい土壌でない限り必要はありません。

肥料

植えつけ1年目

4月半ばから8月頃の間3回くらい、株元の直径50～60cm位のところに、50g程度の緩効性化成肥料を均一にばらまいて、軽く土とまぜます。

苗木植えつけ後2～3年

12月～2月頃に1回、乾燥鶏ふん100～200gと緩効性化成肥料一握りを、株元の直径50～60cm位のところに均一にばらまいて、軽く土とまぜます。

成木

枝の伸び、実のつき方を見ながら加減します。

実梅の場合は枝が長く伸びている場合は肥料をひかえます。

12月～1月に1回、油かすや鶏ふんなどの有機質肥料を株元の直径50～60cm位のところに施します。

6月下旬、お礼肥えに速効性化成肥料を施します。

剪定

ウメは切ることで耐え、樹形造りの容易な樹木ですが、切りすぎは禁物です。剪定にあたっては、細かい剪定より、先ずは樹形を考えます。内向枝(内側に伸びた枝)、交差枝、平行枝などを作らないようにこころがけます。

花ウメ

剪定の時期は花後が良いです。

花後は芽が伸び始めるので、葉芽の有無がすぐわかり、枝も思い切って切れます。

落葉後は、徒長枝など観賞上不都合な枝があれば、除く程度に留め、あとは花後にします。花後は、骨組みになる枝や伸ばしたい枝は長めに残し、混みすぎる枝を除いた後に、10～15cm程度に切り詰めます。その場合、枝の外側についた葉芽の上の位置で切ることが大切です。その後枝が伸びたら、20～30cmで枝を切り、2度伸びするものはこまめに指で芽かきをします。

実ウメ

12～1月に行います。花ウメと同じ要領で行いますが、枝の切り詰めは20～30cmと控えめにします。

鉢植え

植えつけ

排水のよい土(例:ミジンをふるった小粒赤玉土7～8:腐葉土3～2、ゴロ土少々)で植えつけます。

根が鉢の中いっぱいになると、通気が悪くなるので、2～3年に1回植えかえます。

3月中旬～下旬が適期です。

水やり

鉢土の表面が白く乾いたら、たっぷり水やりをします。

花芽の形成期(6月下旬～8月)は、ひかえめな上手な水やりをします。水やりは1回の量ではなく回数で調整します。

夏の水やりについて、葉がまくほど乾燥させるとよいという話がありますが、葉がまけば光合成の能率が落ちてしまいます。

肥料

4月から7月の開花後から生長期にかけて2～3回、油カスに骨粉などのまざった玉肥など有機質肥料を施します。

剪定

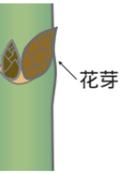
花後は葉芽を2、3芽残し、外側の葉芽の上で剪定します。

14～15cm以上伸びた枝は切ります。その後また伸びてきたら、先の方の葉をつみます。

かが ようが
花芽と葉芽(あとで枝になる芽)の見分け方

8月頃に花芽は短い新梢に多くできます。

12月の葉芽は黒く小さく、花芽は葉芽よりやや大きく、やや茶色っぽいので区別できます。



病虫害(庭植え、鉢植え)

ウメは育てやすい木ですが、アブラムシやカイガラムシ、幹を食害するコスカシバ等害虫に注意しましょう。

果実の病気には黒星(クロボシ)病やカイヨウ病があります。

正月の松竹梅の寄せ植え



年末、園芸店でつぼみあるいは開花の状態の販売されている盆栽向きの株は、早咲き種の「紅冬至」「新冬至」「八重寒紅」「八重野梅」などです。遅咲き種は正月いっぱい外で寒さにあてなくては充分な開花はしません。

正月の寄せ植え

[材料]

ウメ、ゴヨウマツ、ササ、他にフクジュソウ、ヤブコウジ、ナンテン、ユキワリソウなど1～2種類、小粒赤玉土、ゴロ土少々、石、コケ、化粧砂、鉢

[作り方]

鉢穴を鉢片でふさぎ、ゴロ土を敷き、ウメを右に寄せて置きます。石を置き、マツとササを植え、フクジュソウ等を植えます。ウメ、マツの根元に土を盛って、コケを張り、立体感を出します。コケを張らない部分に化粧砂をまきます。

[観賞中の手入れ]

十分に寒さに合わせたあとで、室内にいれます。早過ぎて寒さが不足しますと、つぼみが落ちます。暖房のある部屋には置かないでください。花からは早めに取り除きます。

[観賞後の手入れ]

花が終わったら、軒下などの霜のあたらない外に出し、乾いたら水やりをします。

2月下旬～3月上旬に、それぞれ小さめの浅い鉢に植え替えます。各枝に葉芽が少ないので、買って来た時と同じ樹形にはなりませんが、翌年も使ってみましょう。マツ、ササも小づくりに育て、利用しましょう。